

# 2020年3月期 第2四半期 決算説明会

---

2019年11月14日

 日本カーバイド工業株式会社

## 1. 会社概要

## 2. 2020年3月期第2四半期決算の概要

## 3. 2020年3月期通期業績予想

## 4. 中期経営計画「NCI-2021」進捗状況

# 1. 会社概要

---

# 会社概要

(2019年9月30日現在)

商号	日本カーバイド工業株式会社 (NIPPON CARBIDE INDUSTRIES CO.,INC.)
本社	東京都港区港南2丁目16番2号
設立	1935年10月
資本金	7,034,055,242円
発行済株式数	8,194,029株
連結従業員数	3,475名
事業内容	電子・機能製品事業、フィルム・シート製品事業、 建材関連事業、エンジニアリング事業

# 経営理念－ミッション・ビジョン・価値観－

## Mission

私たちのミッション

技術力で価値を創造し、  
より豊かな社会の発展に貢献する。

## Vision

私たちのビジョン

キラリと光る、価値ある企業グループ

## Values

私たちが大切にしている価値観

誠実であること

*Sincerity*

奉仕すること

*Service*

協力すること

*One-NCI*

創造すること

*Innovation*

# 沿革①

## 1935 創業

カーバイドとは炭素と金属元素の化合物（化学式CaC<sub>2</sub>）のことです。カーバイドは石灰岩から得られる生石灰とコークス（炭素）を高温で熱して生成します。良質な石灰岩を安定的に調達でき、また生成に必要なエネルギーを豊富な水資源による水力発電から得られる富山県魚津市に1935年、日本カーバイド工業は創立されました。当時、カーバイドを原料としたアセチレン誘導工業は化学工業の最先端でした。

## 1940～60's 自社技術の深化・拡大

- ・ 現：株式会社三和ケミカル設立、化学・医薬品製品の製造・販売を開始
- ・ 東京証券取引所に株式上場
- ・ 早月工場（富山県滑川市）操業開始
- ・ 大阪証券取引所に株式上場
- ・ メラミン樹脂製品の製造・販売を開始
- ・ 機能樹脂（粘・接着剤）の製造・販売を開始
- ・ ビニフレーム工業株式会社設立、建材関連事業に進出
- ・ 包装材料の製造・販売を開始
- ・ ダイヤモンドエンジニアリング株式会社設立、エンジニアリング事業に進出

## 1970～90's 新規事業・海外展開の拡大

- ・ マーキングフィルムの製造・販売を開始
- ・ 株式会社北陸セラミックに資本参加、電子材料（セラミック基板）事業に進出
- ・ タイにTHAI DECAL CO.,LTD設立、ステッカー事業を開始
- ・ タイにELECTRO-CERAMICS (THAILAND) CO.,LTD.設立、セラミック基板事業を展開
- ・ プリント配線板事業を開始
- ・ ニッカポリマ株式会社設立、米国および欧州に販売拠点を設置（米国にNIPPON CARBIDE INDUSTRIES (USA) INC.、ドイツにNIPPON CARBIDE INDUSTRIES (EUROPE) GmbH、フランスに現：NIPPON CARBIDE INDUSTRIES FRANCE S.A.S.、スペインに現：NIPPON CARBIDE INDUSTRIES ESPANA S.A.、オランダにNIPPON CARBIDE INDUSTRIES (NETHERLANDS) B.V.を設立）、再帰反射シート事業に進出
- ・ インドネシアにPT ALVINY INDONESIA設立、ステッカー及び建材関連事業を展開
- ・ 中国に現：恩希愛(杭州)薄膜有限公司設立、再帰反射シート事業を展開
- ・ ベトナムにNCI(VIETNAM)CO.LTD.設立、ステッカー事業を展開
- ・ 米国にNIPPON CARBIDE INDUSTRIES(South Carolina)INC.設立、トナー用樹脂事業を開始

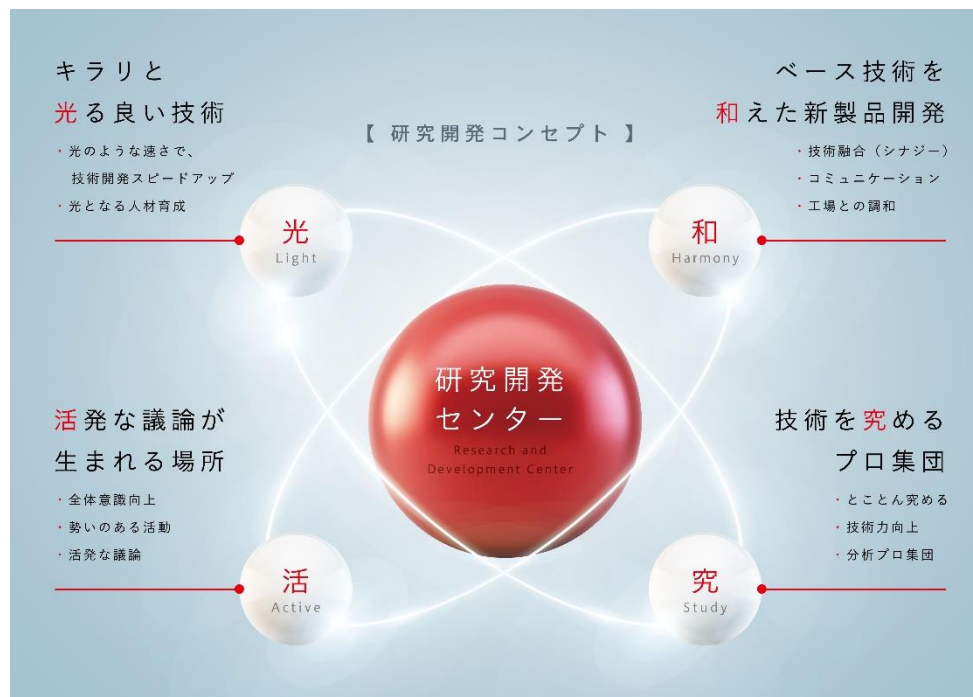
# 沿革②

## 2000's～ 選択と集中

- ・ インドにNIPPON CARBIDE INDIA PVT.LTD.設立、ブラジルにNIPPON CARBIDE INDUSTRIA DO BRASIL LTDA. 設立、ス  
テッカー事業を展開
- ・ ニッカポリマ株式会社解散、再帰反射シート事業の効率化を進める
- ・ プリント配線板事業からの撤退
- ・ 国内4か所にあった研究拠点を研究開発センター（富山県滑川市）に集約



研究開発センター  
© 株式会社エスエス/島尾望

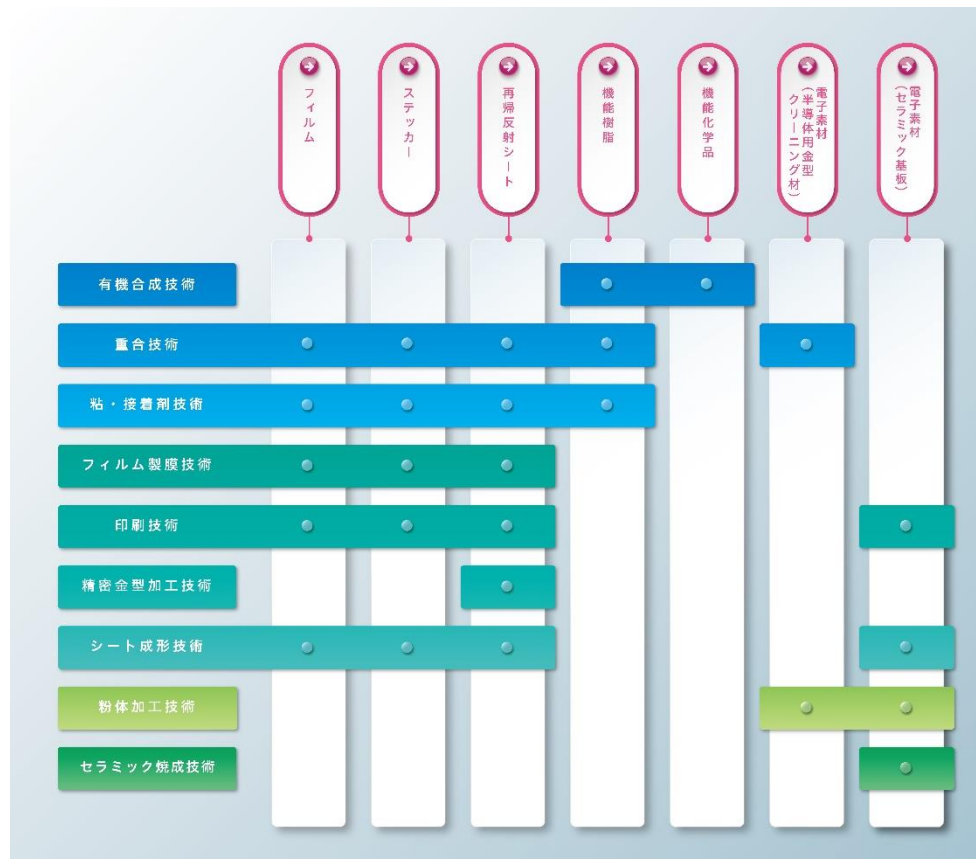


## 2019～ 成長路線へ

新・中期経営計画をスタート。  
更なる進化を目指して、コア技術の深化やグループのさまざまな専門技術の融合によって、新しい可能性に挑戦しつづけていきます。

# 私たちの技術

カーバイドと石灰窒素、およびその誘導工業からスタートした日本カーバイド工業は、化学工業の発展とともに事業内容を広げて多様な製品を生み出してきました。コア技術である樹脂重合技術、フィルム・シート技術、焼成技術を軸に、社会の求める製品を作り続けています。





# 事業セグメント

## フィルム・シート製品事業

フィルム  
ステッカー  
再帰反射シート



## 電子・機能製品事業

機能化学品  
機能樹脂  
電子素材



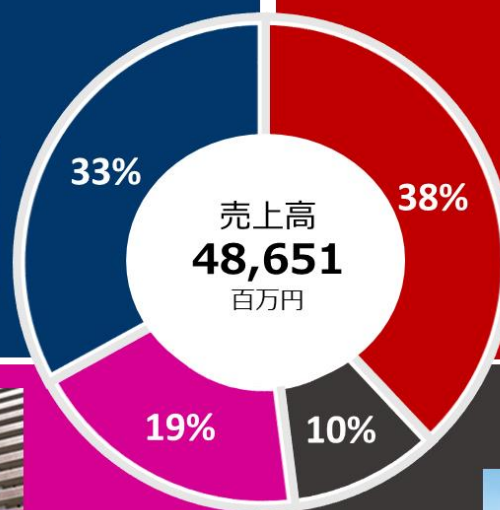
## 建材関連事業

ビル・住宅用アルミ建材  
内装建材用プラスチック押出製品



## エンジニアリング事業

産業プラントの設計・施工



※売上高および内訳は2019年3月期実績

# 電子・機能製品事業【機能化学品】

## 創業当時から培った技術とノウハウで、電子材料をはじめとした様々な原料や薬品を提供

医薬品や農薬、電子材料や特殊塗料など、人々の暮らしに広く行きわたる、さまざまな製品のベースを担う化学品を提供。社名でもあるカーバイドからはじまり、多様なニーズに応えながら培ってきた知識と経験、そして技術力を活かしながらこれからも人々が求め、暮らしが求める新しい価値を、「機能化学品」によって生み出し続けていきます。



### 商品の一部となる製品を提供する主な分野

電子材料

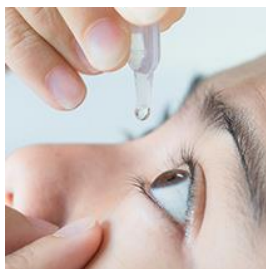
特殊材料

農薬

金属表面処理剤

医薬品

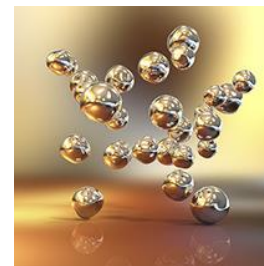
生化学



点眼薬、血栓溶解剤、  
青あざ治療薬など、  
医薬品の原体を開発



萌芽や発芽を促進する  
植物成長調整剤  
『CX-10』で、高い  
シェア



長年培ってきた脱金  
属技術は、組成を変  
えずにppb単位まで  
脱金属化が可能

社名にもある「カーバイド」由来の化合物を中心に、電子材料、特殊塗料、農薬、金属表面処理剤、医薬品、生化学など多様な分野に製品を供給しています。

「CX-10」は、落葉果樹の発芽促進を目的とした植物成長調整剤の国内唯一のメーカーとして、シェア100%。（当社調べ）

# 電子・機能製品事業【機能樹脂】

## あらゆるニーズや商品の「粘着・接着させる」にお応えする、高機能な粘・接着剤

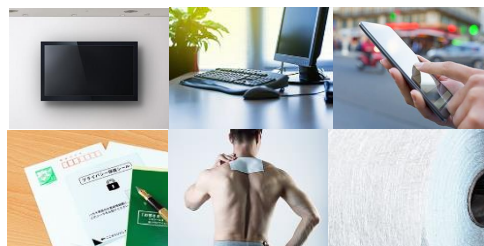
自動車から、テレビやスマートフォン、紙や塗料に繊維、さらにはパップ剤や化粧品まで。

私たちがふだん目にする、使う、身につける、多くの“モノ”を形づくるために、当社の多種多様な「粘・接着剤」が使われています。時代とともに変化していくさまざまなお客様のニーズにお応えできるよう、今後も製品バリエーションをいっそう充実させていきます。



### 粘・接着剤

幅広い用途に粘着・接着目的で使用される製品を提供



テレビ・スマートフォン・タブレット・PCなどの液晶の偏光板に使われる光学フィルム用粘着剤／個人情報保護シール・宅配ラベル・付箋の粘着剤／パップ剤の粘着部分の粘着剤など



### 食器用 メラミン樹脂

軽くて丈夫、熱に強く色付けしやすいメラミン樹脂。学校や病院、企業の食堂や回転寿司店などで使われる食器の材料を提供



### トナーインク・塗料の原料

塗料、トナー用、コーティング材、繊維加工などの樹脂

当社は特に粘着（すぐに「つく」ことができ、「剥がす」こともできる）に高い技術を誇ります。お客様のニーズに合わせて製品を開発していくビジネスモデルです。また、「ドラッグマスターファイル（DMF）に登録している製品もあり、医薬品向けにも提供しています。

# 電子・機能製品事業【電子素材】

## 半導体向け金型クリーニング材

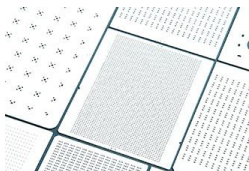
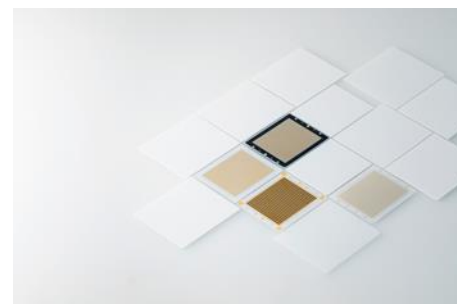
半導体の製造において、樹脂汚れを除去する「金型のクリーニング材」として当社が開発したメラミン樹脂が活躍しています。半導体業界では「ニカレットECR」という製品名で広く認知されており、確かなクリーニング性能に加え、金型を取り外すことなく洗浄できる優れた作業性から、半導体製造に“なくてはならない存在”という高い評価をいただいています。



半導体向け金型クリーニング材の販売は、世界トップクラスのシェアを誇ります。（当社調べ）

## セラミック基板

暮らしの身近にある、どの電子機器にも必要不可欠な電子部品に使われる「セラミック基板」。各種電子部品のベース基板として、あらゆる電子機器に使用されています。



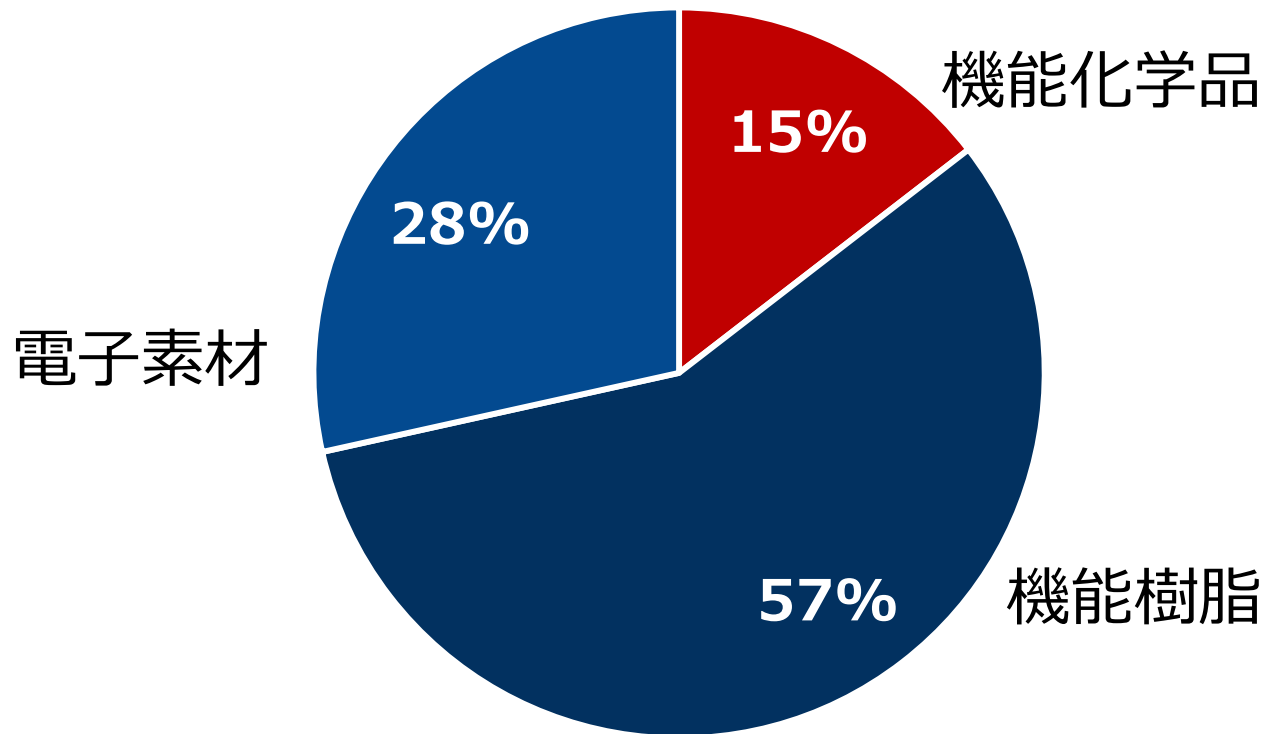
**チップ抵抗器用  
アルミナセラミック基板**  
基板の薄板化と精密加工に高い技術力



**グリーンシート**  
チップ抵抗器用以外の新たな用途に供するためのセラミック基板材料

当社は、市場の黎明期から40年にわたり製品を供給する、市場のパイオニア的存在です。アルミナ原料の配合から焼成、印刷まで全ての工程を有していることが強みです。基板の薄板化と強靱性に高い技術を有し、高機能チップ抵抗器用アルミナセラミック基板では世界トップクラスのシェアを誇ります。（当社調べ）

2019年3月期 売上高実績  
19,030百万円





# フィルム・シート製品事業【フィルム】

## 街の彩りから、過酷な環境下のラベルまで。優れた耐候性の高機能フィルム

街で思わず目を引く看板、電車の車体などにも使われる「マーキングフィルム」は、とりどりのカラーとタフな耐候性が特徴。「カラー透明フィルム」や「半透明フィルム」は光源によって鮮明に浮かびあがり、昼夜問わず、カラフルに演出することができます。その他、自動車のラベルにも使用される「レーザーマーキングラベル」、食品の「包装用フィルム」など、毎日をより豊かに彩る、使用シーンや目的に応じた特徴あるフィルムを数多くお届けしています。



### マーキングフィルム

耐候性に優れたカラー塩ビフィルムで、「貼る塗料」とも言われます。鉄道・バス・トラックなどのラッピング／自動車の塗装代替／店舗看板／屋内・屋外看板／屋外広告などに使用



### レーザーマーキングラベル

シリアルNo.等の個体情報を必要とする認証ラベルや銘板ラベル、生産物の工程管理や製造履歴を残すラベルに最適な材料



### 包装用フィルム

スーパーや飲食店などで使用される食品包装フィルム

- お客様のご要望に合わせた色を再現する調色技術と粘着剤の自社開発技術を組み合わせ、用途に適した高耐久性のマーキングフィルムを提供しています。
- 優れた印字性、耐熱性、耐久性を持ち、用途により自己破壊性を付与することもできるレーザーマーキングラベルは、国内メーカーとしては当社のみが提供しています。

# フィルム・シート製品事業【ステッカー】

## 海外5拠点の製造ネットワークで、車体を飾るグラフィック印刷を提供

東南アジアをはじめ世界各国で、ドライブに、通勤の足にと、多くの人の生活に欠かせないオートバイ。各国の文化や好みにあわせながら、車体を鮮やかに飾る「グラフィックステッカー」や「3Dエンブレム」を提供しています。タイ、ベトナム、インドネシア、インド、ブラジルに製造拠点を置き、拠点同士がしっかりと連携することでそれぞれが持つ力を最大限に発揮。その技術は自動車や農機、ショベルカーなどの大型建機、さらには電化製品などにも広く役立てられています。



### グラフィックステッカー

塩ビフィルムを用いた高い柔軟性で曲面に貼り付け可能。高い耐候性と豊富なカラーバリエーション



### 3Dエンブレム

曲面追従性に優れ、多彩な色や形状など豊富なバリエーションに対応可能。樹脂成型品には困難なバラ文字にも対応

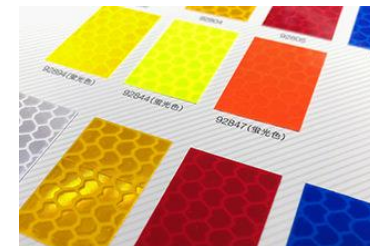
オートバイ、自動車の装飾用ステッカー、ラベル、エンブレム製品を東南アジアを中心として世界各国に展開しています。海外工場はタイ、ベトナム、インドネシア、ブラジル、インドの5拠点到展開しており、それぞれの拠点が連携することで高い機動力を発揮します。



# フィルム・シート製品事業【再帰反射シート】

## 世界の道路で、安心と秩序の確保に貢献

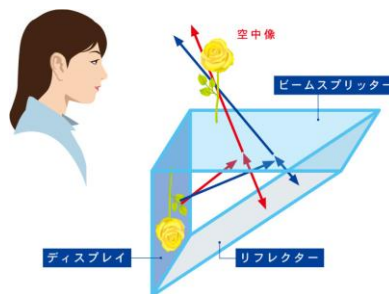
再帰反射とは、光が入った方向に再び帰る反射現象のこと。これにより「再帰反射シート」を使用した道路標識が照らされると夜間でも明るく浮かび上がり、安全と秩序をドライバーへ呼びかけます。“全天候、24時間、明るい安心を”。



道路標識・案内標識・警戒標識・規制標識・指示標識・補助標識・トラックなどの車体マーキング・自転車・全面反射ヘルメット・工事現場の看板・駅名標・広告のサイン・ヘリサイン・海外のカーナンバープレートなど

## 空中ディスプレイ用リフレクター

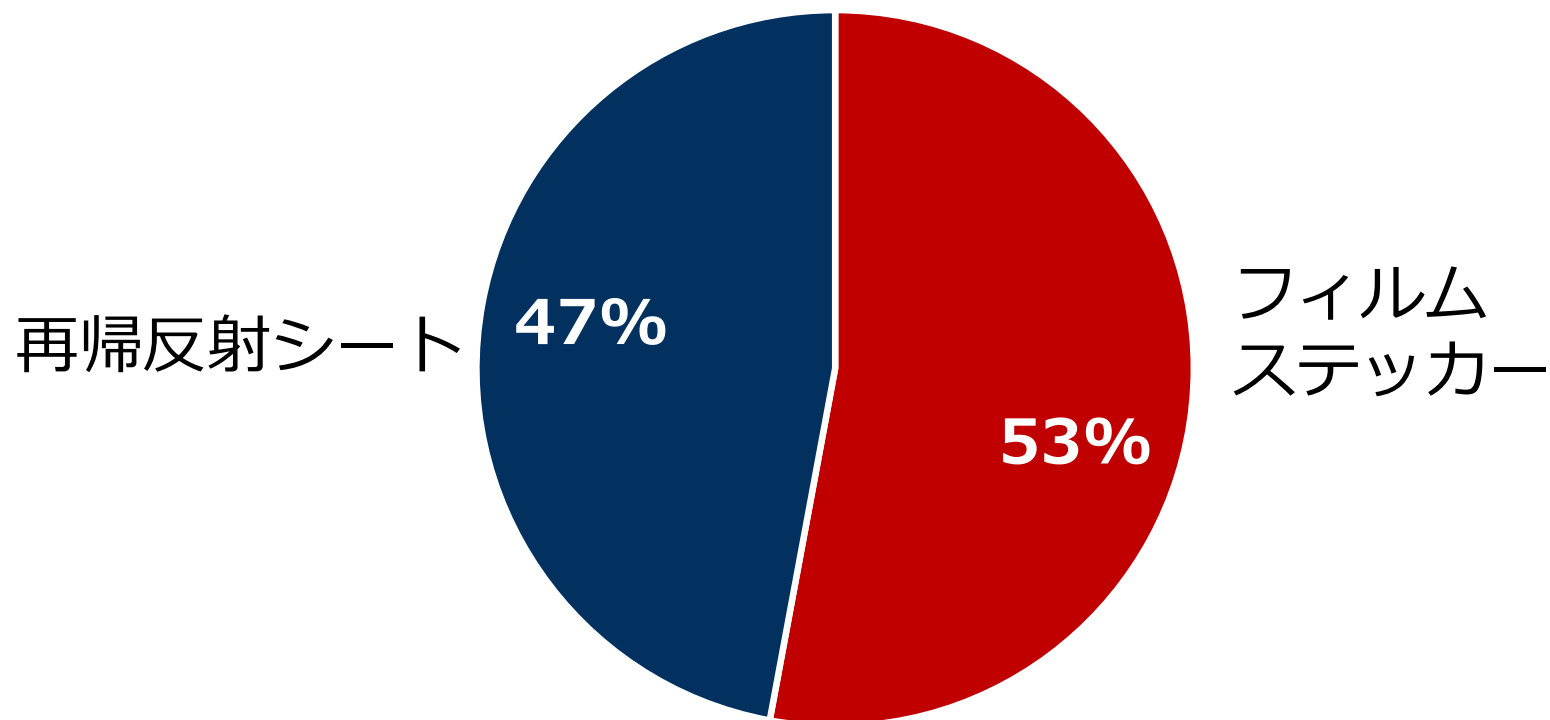
反射材を用いて、鮮明な空中ディスプレイを実現



20年以上の長きにわたり、自社開発した封入レンズ型、カプセルレンズ型、プリズム型の各種再帰反射シートを一貫生産する中で、道路標識、屋外看板、カーナンバープレート、トラックテープ、工事用看板など多様な市場に製品を提供しています。



2019年3月期 売上高実績  
16,370百万円



# 建材関連事業

## ビル・住宅用アルミ建材

ビル・住宅用の手すりやカーポートとして使用されるアルミ建材です。



## 内装建材用プラスチック製品

内装建材製品・電機製品・ファニチャー製品・車輛・機械など幅広く使用されています。



ビニフレーム工業は、プラスチック建具・襖のパイオニアメーカーとして誕生、その後日本のアルミ産業の歴史とほぼ軌を一にして、アルミ建材メーカーとして発展してきました。

# エンジニアリング事業

## 産業プラントの設計・施工

鉄鋼精錬と粉体ハンドリング技術を有し、鉄鋼・化学・環境プラントの設計や施工を行っています。



永年培ってきた鉄鋼精錬と粉体ハンドリング技術は高い評価を得ており、国家研究開発プロジェクト実証機である酸素吹石炭ガス化複合発電実証試験設備も受注しています。

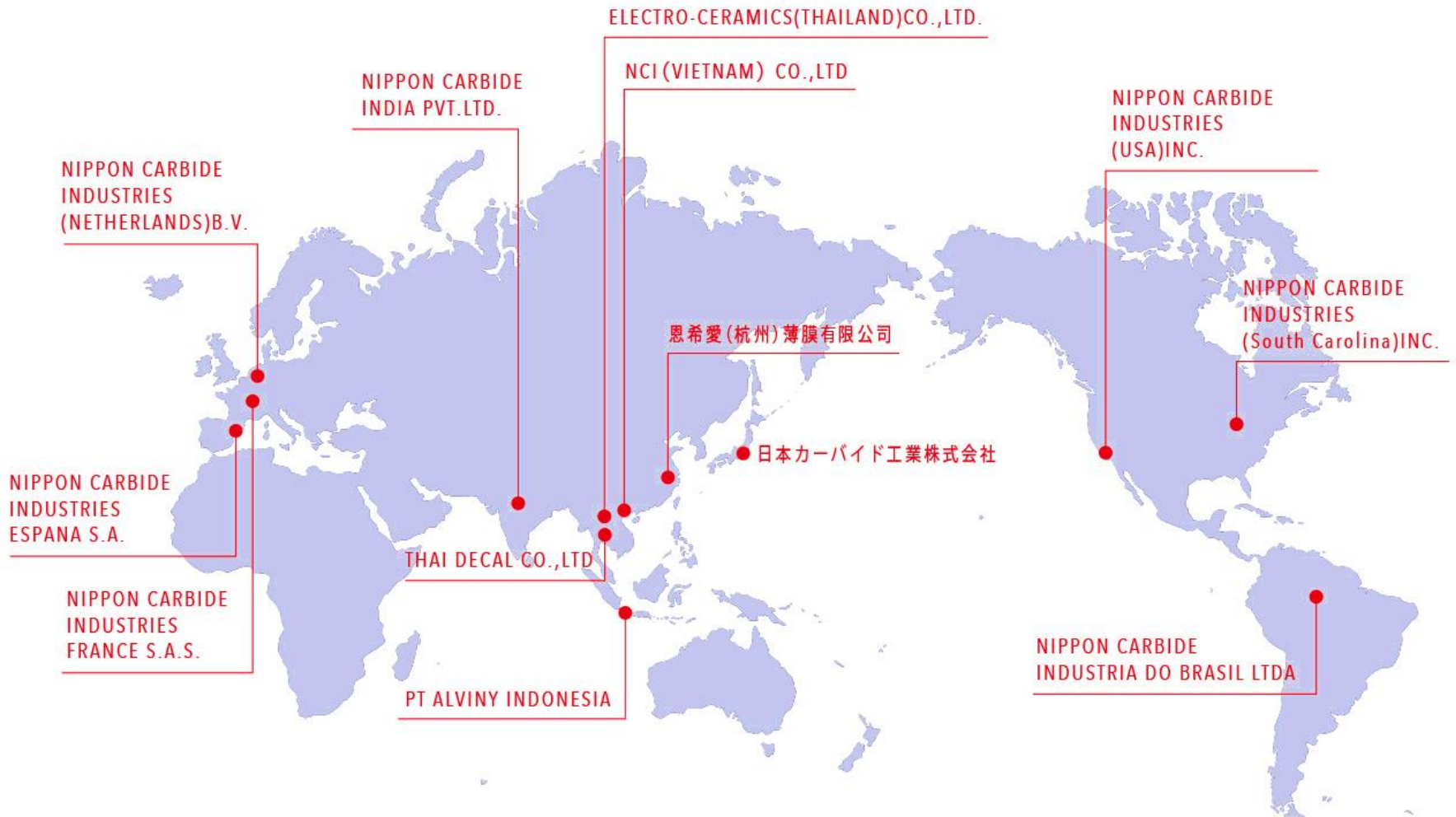
# 国内ネットワーク

国内 6拠点 (本社・支店1拠点・工場2拠点・製造所1拠点・研究所1拠点)  
主要連結子会社 4社



# 海外ネットワーク

## 海外主要拠点 12拠点



## 2. 2020年3月期第2四半期決算の概要

---

# サマリー【連結損益計算書】

- 売上高は当初計画比▲7.5%（前年同期比▲6.5%）、営業利益は当初計画比プラス11.9%（前年同期比▲26.2%）
- 電子素材等の電子・機能製品の販売が減少し、売上高は当初計画を下回る  
営業利益は原材料価格の低下等により、当初計画を上回る

単位：百万円（1株あたり純利益除く）

	2020年3月期第2四半期		2020年3月期 第2四半期	当初計画比		2019年3月期第2四半期		前年同期比	
	実績	利益率	当初計画	増減額	増減率	実績	利益率	増減額	増減率
売上高	22,658	—	24,500	▲ 1,842	▲7.5%	24,237	—	▲ 1,579	▲6.5%
営業利益	1,119	4.9%	1,000	119	+11.9%	1,516	6.3%	▲ 397	▲26.2%
経常利益	1,170	5.2%	1,050	120	+11.4%	1,777	7.3%	▲ 607	▲34.2%
当期純利益	742	3.3%	800	▲ 58	▲7.3%	1,491	6.2%	▲ 749	▲50.2%
1株あたり純利益	90.63円	—	97.71円	—	—	182.16円	—	—	—

※2019年5月13日に公表いたしました2020年3月期第2四半期の業績予想を10月29日に修正しておりますが、本表の「2020年3月期第2四半期当初計画」は、5月13日に公表いたしました業績予想の数値としています。



# 連結貸借対照表

自己資本比率は38.7%、  
前連結会計年度末から0.3ポイント悪化

単位：百万円

	2020年3月期第2四半期 連結会計期間		2019年3月期		前期比増減額
	実績	構成比	実績	構成比	
流動資産	32,427	53.2%	31,588	52.1%	839
（うち棚卸資産）	(8,303)	(13.6%)	(8,030)	(13.2%)	(273)
固定資産	28,474	46.8%	29,021	47.9%	▲ 546
有形固定資産	24,233	39.8%	24,598	40.6%	▲ 365
無形固定資産	789	1.3%	608	1.0%	181
投資その他の資産	3,450	5.7%	3,814	6.3%	▲ 364
<b>資産合計</b>	<b>60,901</b>	<b>100.0%</b>	<b>60,609</b>	<b>100.0%</b>	<b>292</b>
流動負債	20,426	33.5%	21,600	35.6%	▲ 1,173
固定負債	15,473	25.4%	14,043	23.2%	1,430
<b>負債合計</b>	<b>35,900</b>	<b>58.9%</b>	<b>35,643</b>	<b>58.8%</b>	<b>257</b>
（うち借入金）	(18,277)	(30.0%)	(17,271)	(28.5%)	(1,006)
株主資本	17,222	28.3%	16,807	27.7%	415
その他の包括利益累計額	6,369	10.5%	6,850	11.3%	▲ 481
非支配株主持分	1,409	2.3%	1,307	2.2%	102
<b>純資産合計</b>	<b>25,001</b>	<b>41.1%</b>	<b>24,966</b>	<b>41.2%</b>	<b>34</b>

※参考

自己資本／自己資本比率

2020年3月期第2四半期 23,591百万円／38.7%

2019年3月期 23,658百万円／39.0%



# セグメント概要

電子・機能製品事業、フィルム・シート製品事業、エンジニアリング事業が減収減益、建材関連事業が増収増益

(単位：百万円)

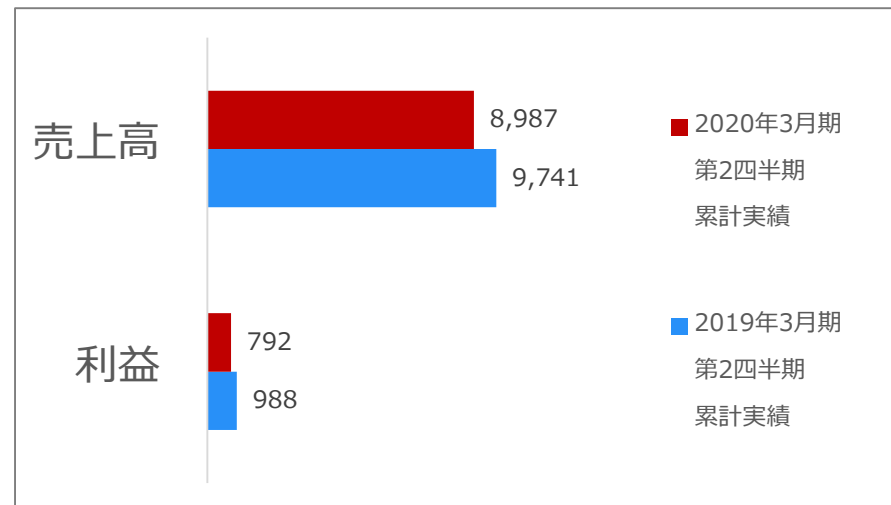
		2020年3月期第2四半期		2019年3月期第2四半期	前年同期比	
		実績	構成比	実績	増減額	増減比
電子・機能製品	売上高	8,987	38.7%	9,741	▲ 754	▲7.7%
	営業利益	792	60.3%	988	▲ 196	▲19.8%
フィルム・シート製品	売上高	7,546	32.5%	7,896	▲ 350	▲4.4%
	営業利益	254	19.3%	747	▲ 493	▲66.0%
建材関連	売上高	4,773	20.5%	4,770	3	+0.1%
	営業利益	288	21.9%	123	165	+134.1%
エンジニアリング	売上高	1,941	8.3%	2,198	▲ 257	▲11.7%
	営業利益	▲ 21	-1.6%	▲ 13	▲ 8	—

# セグメント別状況 【電子・機能製品事業】

単位：百万円

		2020年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	前年同期比	
		実績	実績	増減額	増減比
電子・機能製品	売上高	8,987	9,741	▲ 754	▲ 7.7%
	営業利益	792	988	▲ 196	▲ 19.8%

- 機能化学品は医薬関連は堅調に推移したものの、農薬向けが低迷し、減収
- 機能樹脂は光学関連分野向け粘・接着剤は横ばいで推移したが、トナー用樹脂の販売が低調で、減収
- 電子素材は、市況の悪化により半導体用金型クリーニング材が海外での販売が伸びず、減収。セラミック基板は車載向けが低調となり、減収

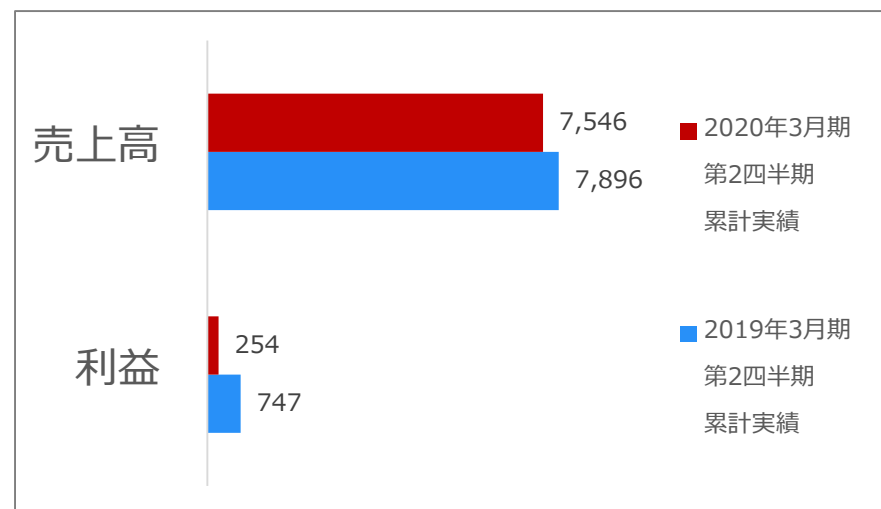


# セグメント別状況 【フィルム・シート製品事業】

単位：百万円

		2020年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	前年同期比	
		実績	実績	増減額	増減比
フィルム・ シート製品	売上高	7,546	7,896	▲ 350	▲4.4%
	営業利益	254	747	▲ 493	▲66.0%

- ・ マーキングフィルムは国内向けの販売が回復し、増収
- ・ ステッカーは東南アジア地域などでの販売が伸びず、減収
- ・ 再帰反射シートは欧州や中国向け販売が総じて振るわず、減収
- ・ さらに人件費や輸送費等のコスト上昇もあり、減益

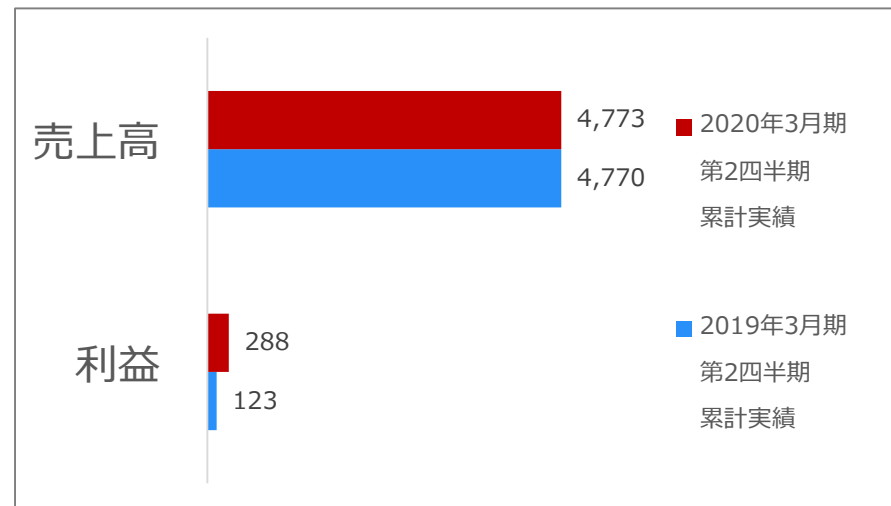


# セグメント別状況 【建材関連事業】

単位：百万円

		2020年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	前年同期比	
		実績	実績	増減額	増減比
建材関連	売上高	4,773	4,770	3	+0.1%
	営業利益	288	123	165	+134.1%

- 住宅着工戸数は賃貸住宅を中心に減少傾向にあるものの、主力の手摺、笠木等の販売が堅調に推移し、増収
- アルミ地金価格の低下による原価低減などもあり、増益

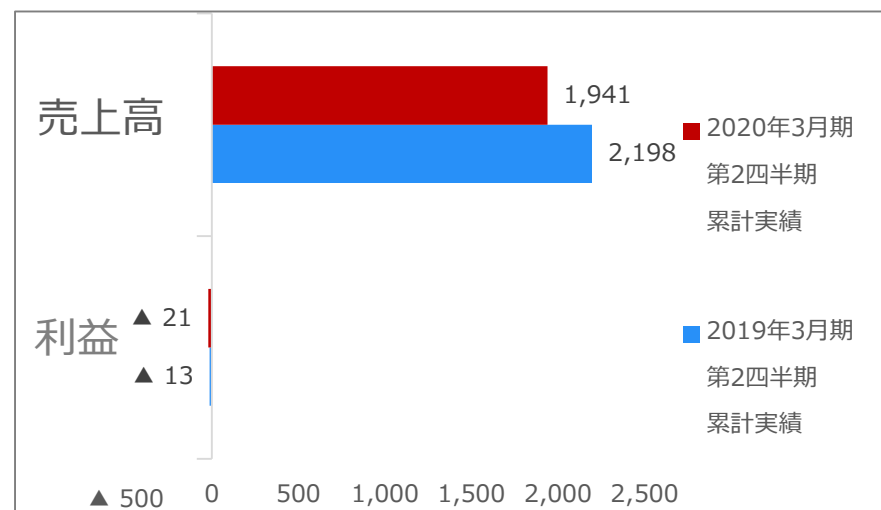


# セグメント別状況 【エンジニアリング事業】

単位：百万円

		2020年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	前年同期比	
		実績	実績	増減額	増減比
エンジニアリング	売上高	1,941	2,198	▲ 257	▲11.7%
	営業利益	▲ 21	▲ 13	▲ 8	—

- 国内向け工事案件の完工が減少したことなどにより、減収



# 当社をとりまく状況① 米中貿易摩擦の長期化

- 中国・恩希愛（杭州）薄膜有限公司で製造し、米国に輸出している、道路標識などに使用される再帰反射シートが、米国による追加関税リストの対象となっている。



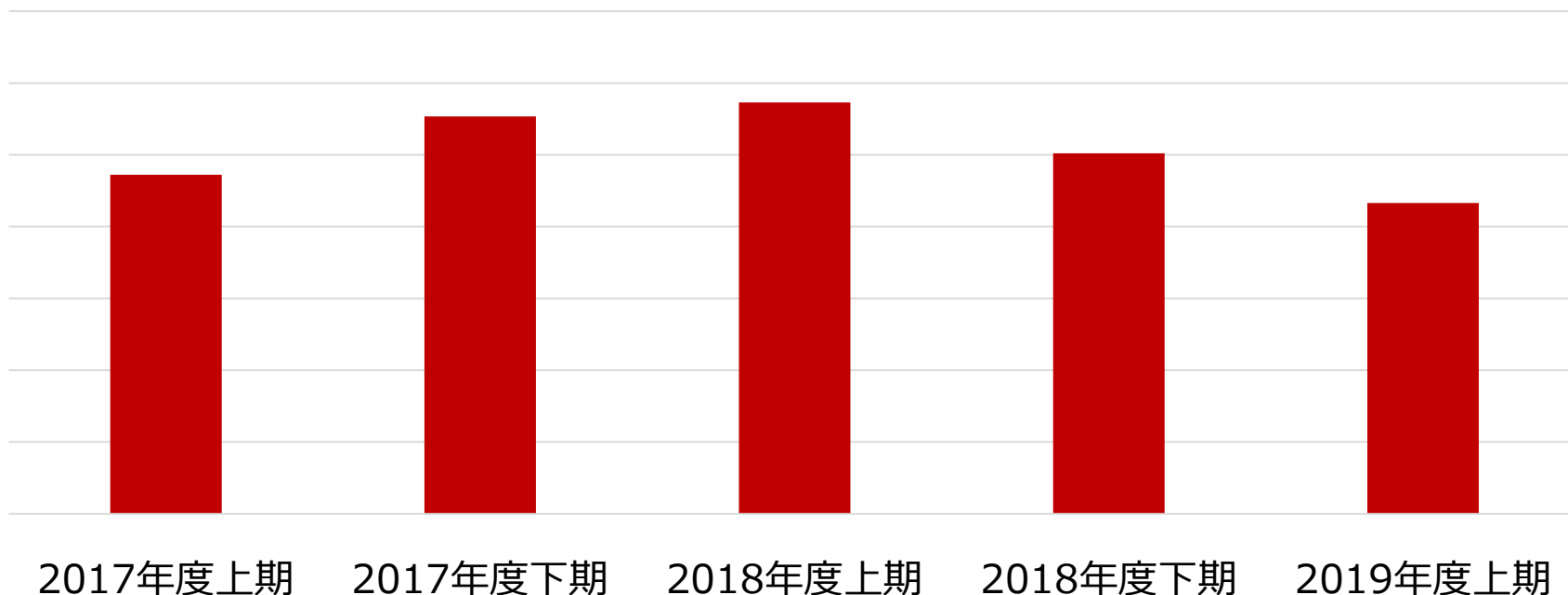
- 米国・NIPPON CARBIDE INDUSTRIES (South Carolina) INC.で製造し、中国に輸出しているトナー用樹脂が、中国による追加関税リストの対象となっている。



→ 今後、課税の適用範囲が汎用品にも広がれば、間接的な影響も。

## 当社をとりまく状況② 電子素材の低調

電子素材 売上高推移



- 中国・EUにおける自動車販売数の減少→車載向けセラミック基板の販売に影響
- スマホ向けセラミック基板の販売が減少
- 半導体の在庫量が調整されており、半導体市場全体が低迷→半導体用金型クリーニング材の販売に影響

## 3. 2020年3月期業績予想

---



# 2020年3月期 連結業績予想

米中貿易摩擦の長期化や為替の影響等により、売上高及び各利益とともに2019年5月13日に公表していた業績予想を下回る見込みとなったため、10月29日に業績予想の修正を発表

単位：百万円

	修正後業績予想		修正前業績予想		修正前後比		前期実績比	
	予想	利益率	予想	利益率	差額	増減率	差額	増減率
売上高	47,000	—	51,000	—	▲ 4,000	▲7.8%	▲ 1,651	▲3.4%
営業利益	2,500	5.3%	2,700	5.3%	▲ 200	▲7.4%	▲ 149	▲5.6%
経常利益	2,750	5.9%	2,950	5.8%	▲ 200	▲6.8%	▲ 369	▲11.8%
当期純利益	1,750	3.7%	2,000	3.9%	▲ 250	▲12.5%	▲ 50	▲2.8%
1株当たり純利益	213.75円	—	244.28円	—	—	—	—	—

# セグメント別業績予想

単位：百万円

		修正後業績予想	修正前業績予想	修正前比		前期比 トレンド
				差額	増減率	
電子・機能製品	売上高	18,500	20,000	▲ 1,500	▲7.5%	
	営業利益	1,700	2,200	▲ 500	▲22.7%	
フィルム・シート製品	売上高	15,500	17,000	▲ 1,500	▲8.8%	
	営業利益	1,000	1,100	▲ 100	▲9.1%	
建材関連	売上高	9,500	10,400	▲ 900	▲8.7%	
	営業利益	500	400	100	—	
エンジニアリング	売上高	4,500	4,600	▲ 100	—	
	営業利益	0	0	0	—	

※各事業の予想値は連結調整前

# 業績予想のポイント

## 米中貿易摩擦の長期化や為替の影響等により、売上高・利益ともに業績予想を 下方修正

### 電子・機能製品

- 機能化学品では、医薬関連等の高付加価値製品の販売が好調。下期はさらに拡販に注力する
- セラミック基板、半導体用金型クリーニング材とも底を打ち、電子素材が復調の兆し

### フィルム・シート製品

- ステッカーでは、価格低下が懸念材料。3Dエンブレムなど高単価製品の拡販に注力する
- 再帰反射シートはカーナンバープレート向けの拡販に注力する

### 建材関連

- アルミ地金など原材料価格が低位に推移し、引き続き利益にプラスに影響する見込み

### エンジニアリング

- 国内外での製鉄業界への展開強化と、富山県内大手企業等からの受注拡大に注力するが、足元は減収減益の見込み

## 4. 中期経営計画「NCI-2021」進捗状況

---

## NCI-2021 数値目標

売上高	連結	<b>570億円</b>
	コア事業	<b>420億円</b>

営業利益	コア事業	<b>45億円</b>
------	------	-------------

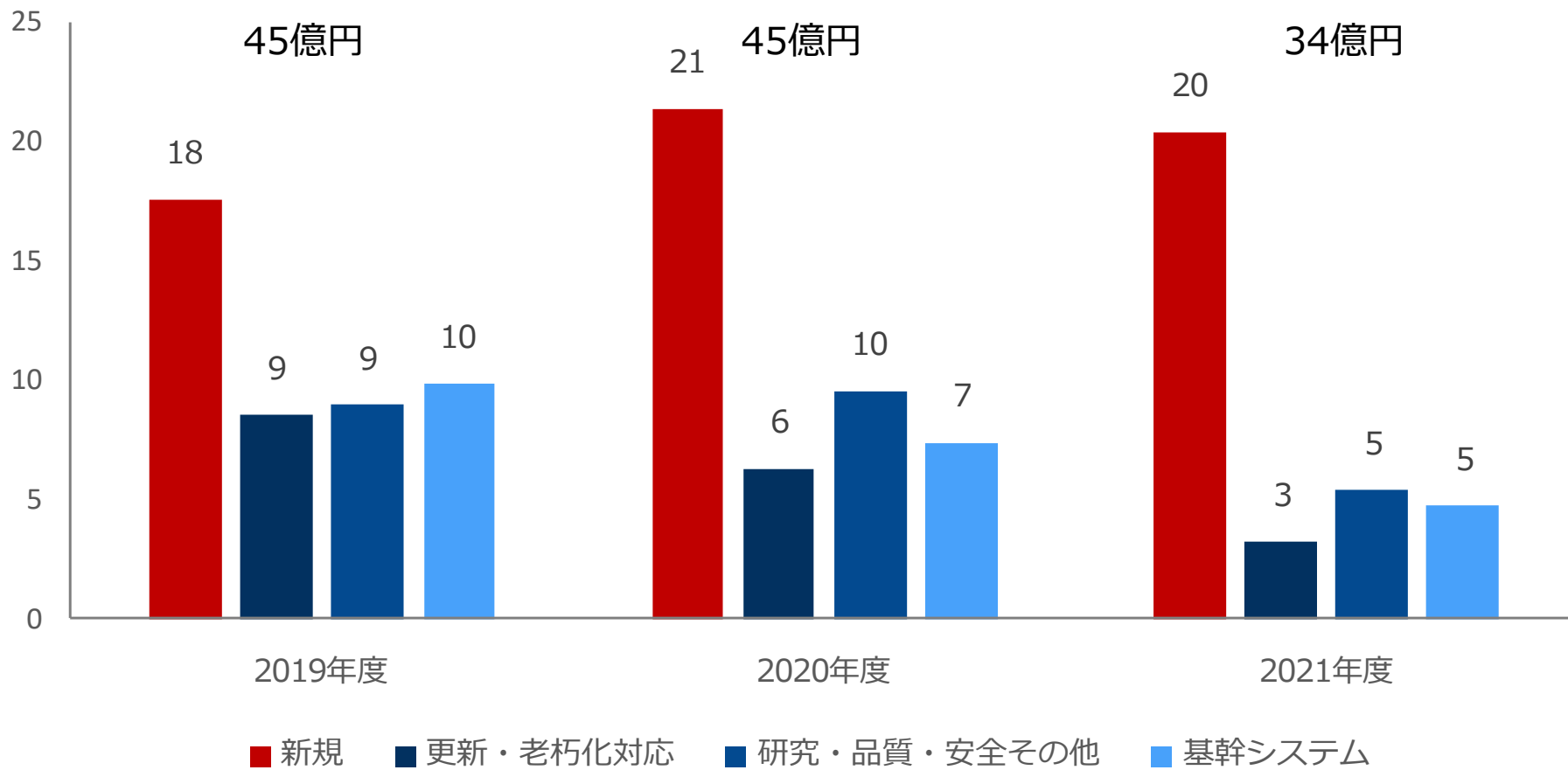
営業利益率	コア事業	<b>10%</b> (化学業界の平均)
-------	------	-------------------------

ROA	連結	<b>4.0%</b>
-----	----	-------------

# 投資計画

投資額総計は3年間で124億円を計画、うち新規投資案件は59億円

(単位：億円)



## Moving to the growing stage (成長のステージへ)

2021年度に向けた中期経営計画「NCI-2021」が  
2019年度よりスタートしました。

日本カーバイド工業は、  
**「成長戦略への本格転換」**を目指します。

**コア事業**のうち

**高付加価値ビジネス**を**成長戦略**とし

未来の社会に幅広く貢献する

持続的成長可能な化学系企業グループ



# 「コア事業」

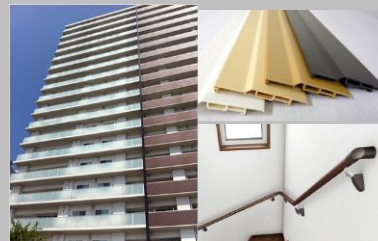
電子・機能製品事業



フィルム・シート製品事業



建材関連事業



エンジニアリング事業



## コア事業

# 「高付加価値ビジネス」

- 高付加価値ビジネス =
- ① コア事業のうち、**高機能樹脂**および**機能性フィルム**を**戦略分野**とする
  - ② 戦略分野×戦略分野

戦略分野

高機能樹脂

機能性  
フィルム

戦略分野×戦略分野

高機能樹脂

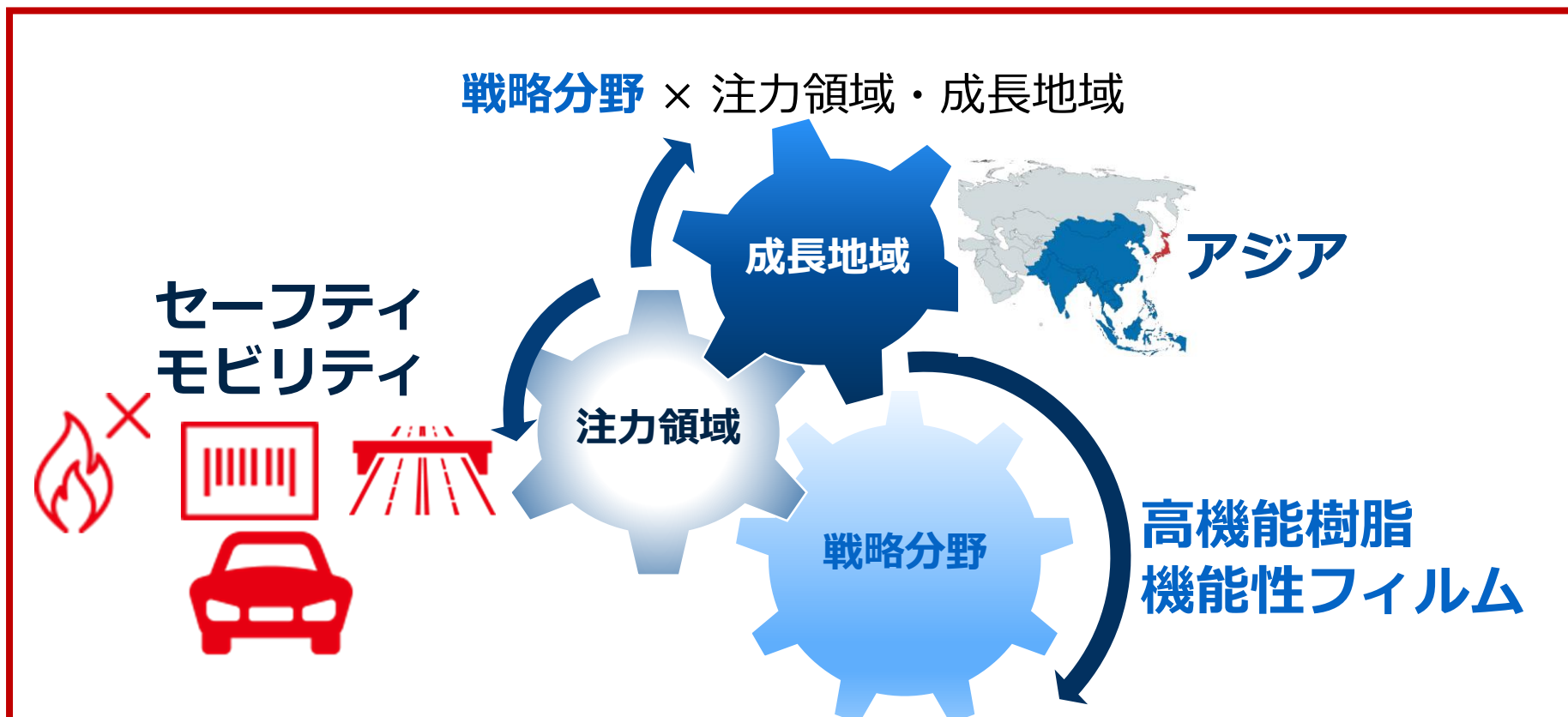


機能性  
フィルム

研究・製造・販売の融合  
新商品開発、新市場開拓

# 「成長戦略」

コア事業のうち、高機能樹脂、機能性フィルムを戦略分野として、注力領域・成長地域への取組みを強化する



# 注力領域×成長地域

		成長地域			
		日本	アジア	その他	
注力領域	セーフティ	難燃剤			
		医療用樹脂			
		医薬品原体			
		粘・接着剤			
		カーナンバープレート用／標識用／広告・看板用 再帰反射シート			
	モビリティ	レーザーマーキングラベル			
		空中ディスプレイ用リフレクター			
		車両用（外装・内装）フィルム 車両用グラフィックステッカー			
		グリーンシート	3Dエンブレム		
		チップ抵抗器用アルミナセラミック基板			

戦略分野

# 【進捗状況】コア事業（戦略分野）の成長戦略

## 粘・接着剤の中国市場展開

中計における位置づけ		
戦略分野	注力領域	成長地域
高機能樹脂	セーフティ    モビリティ	アジア



これまで日本国内市場が中心であった光学製品向け粘・接着剤の中国市場での拡販を目指し、日本カーバイド工業株式会社および中国・恩希愛（杭州）薄膜有限公司において、「中国プロジェクト」をスタートさせました。人員を増加し、中国におけるマーケティングや顧客対応を強化しています。

# 【進捗状況】コア事業（戦略分野）の成長戦略

## 再帰反射シート of 拡販

中計における位置づけ					
戦略分野		注力領域		成長地域	
機能性フィルム		セーフティ	モビリティ	日本	アジア



カーナンバープレート用を中心に、標識用や広告・看板用など多様な用途に使用される再帰反射シートの販売を、中国・恩希愛（杭州）薄膜有限公司を中心に拡大します。

# 【進捗状況】コア事業（戦略分野）の成長戦略

## 新規機能性フィルムの生産立ち上げと拡販

中計における位置づけ		
戦略分野	注力領域	成長地域
機能性フィルム	モビリティ	日本      アジア



中国・恩希愛（杭州）薄膜有限公司で、新規機能性フィルム（車両用（外装・内装）フィルムや車両用グラフィックステッカーなど）の生産開始を計画しています。

# 【進捗状況】コア事業（戦略分野）の成長戦略

## グリーンシートの増産

中計における位置づけ		
戦略分野	注力領域	成長地域
機能性フィルム	モビリティ	日本



自動車の電装化に伴い、SiNシートの増産やLTCCシート・AINシートの供給開始を目指し、株式会社北陸セラミックおよびタイ・ELECTRO-CERAMICS (THAILAND) CO.,LTD.の設備を増強します（2020年度完工予定）。



# 【進捗状況】コア事業（戦略分野）の成長戦略

## ステッカー、3Dエンブレムの拡販

中計における位置づけ		
戦略分野	注力領域	成長地域
機能性フィルム	モビリティ	日本      アジア



アジアにおける機能性フィルムや車両用グラフィックステッカー、3Dエンブレムなどを、お客様のニーズに合わせて製品化・市場投入していくため、ベトナム・NCI(VIETNAM) CO.,LTD.にて、生産ラインの増設を計画しています。

# 【進捗状況】コア事業（戦略分野）の成長戦略

## 空中ディスプレイ用リフレクター「RF-Ax」量産開始

### 中計における位置づけ

戦略分野	注力領域	成長地域
機能性フィルム	セーフティ モビリティ	日本



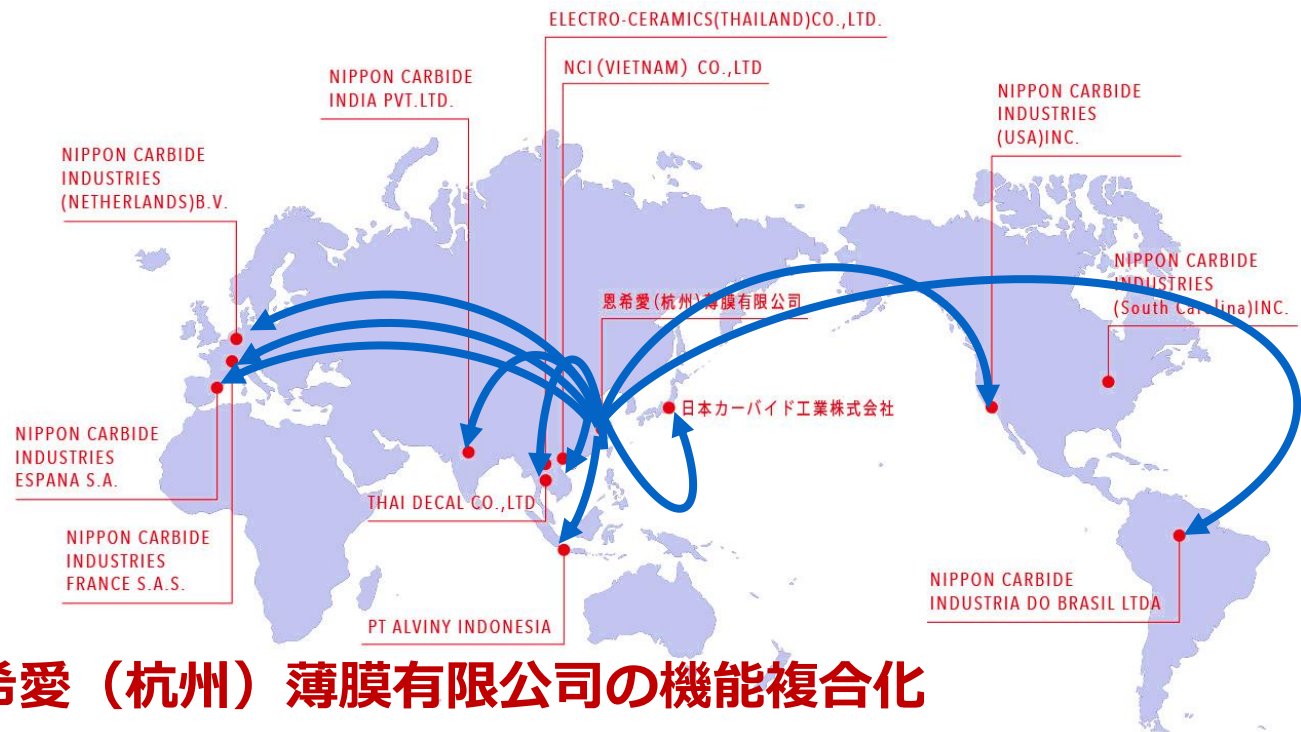
現行品「RF-AC」よりさらに画像の鮮明度が高い「RF-Ax」の増産体制が整い、2019年度下期より増産を開始します。

これに先駆け、「デジタルサイネージ・ジャパン」（6月12～14日）、「CEATEC」（10月15～18日）に出展し、最新技術を紹介しました。また、「CEATEC」では、三菱電機（株）様のブースで展示された「大型空中表示サイネージ」「空中タッチ操作ディスプレイ」に、当社の「RF-Ax」が採用されました。

# コア事業（戦略分野）の成長戦略 中国



- 粘・接着剤の中国市場展開
- 再帰反射シート of 拡販、および新規機能性フィルム of 生産立ち上げと拡販

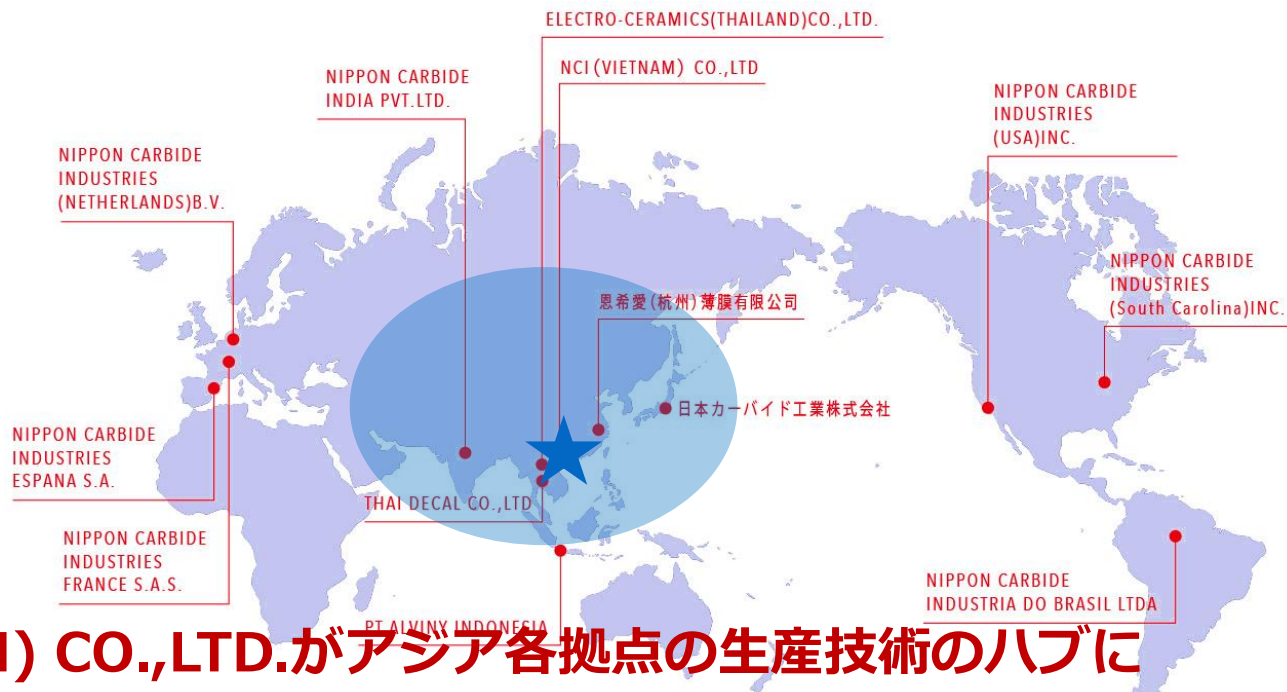


⇒ 恩希愛（杭州）薄膜有限公司の機能複合化

# コア事業（戦略分野）の成長戦略 ベトナム

## 「技術開発センター」の設置

アジアにおける機能性フィルムやステッカー、3Dエンブレムなど、より高度化するお客様のご要望に迅速にお応えするために、「技術開発センター」をNCI(VIETNAM) CO.,LTD.に設置します（2020年1月開設予定）。



⇒NCI(VIETNAM) CO.,LTD.がアジア各拠点の生産技術のハブに

# 働き方改革による生産性の向上



## 新・就労システムスタート

新・就労システムを導入しました。これにより、多様な働き方を実現する施策を推進していきます。

## 新・基幹システムの導入

2020年4月の日本カーバイド工業本社での新・基幹システムの導入（その後順次グループ各社にて導入）に向けて、現在プロジェクトが進められています。これにより、業務の効率化を図っていきます。

## IRに関するお問い合わせ先

# 日本カーバイド工業株式会社

経営企画部 広報・IRグループ

電話（代表） 03-5462-8200

メール [prir@carbide.co.jp](mailto:prir@carbide.co.jp)

【将来見通し等に関する注意事項】本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えないものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。